

薩摩川内市長 岩 切 秀 雄 殿

提 言 書

薩摩川内市女性チャレンジ委員会

平成29年3月

目 次

1 薩摩川内市女性チャレンジ委員会提言を行うにあたって

薩摩川内市女性チャレンジ委員会第6期会長 犬井 美香 1

2 提 言

(1) 教育文化分科会 (さつき) 2

(2) 産業経済分科会 (かのこ百合) 5

(3) 生活環境分科会 (なでしこ) 8

(4) 保健福祉A (さわやかガールズ) 11

(5) 保健福祉B (あじさい) 14

3 提言作成経過 16

4 薩摩川内市女性チャレンジ委員会名簿 (第6期) 18

第6期薩摩川内市女性チャレンジ委員会提言を行うにあたって

平成17年4月1日に設置され、時代の流れと共に変革を遂げてきた本委員会。活動の更なる充実を図るため平成27年4月に設置要綱が一部改正され、名称が「女性チャレンジ委員会」へ、定数も「30人程度」となりました。

第5期同様、私たちはサービスを受ける側であり、サービスを提供する側でもあるという自治の担い手としての視点を明確にし、多様な生き方をしている市民一人ひとりの人権を尊重するために、行政サービスに頼るだけでなく、私たち自身で何ができるかを考えることを目的として「We Do!」を合言葉に話し合いを進めました。

30人が5班に分かれ、現状把握⇒重点課題の抽出⇒解決策の設定と、各班が自主学習会を交えながら男女共同参画の視点を大切にした地域づくり事業構想を立て、その実現に向けた経営計画を2年という時間を費やし策定に取り組みました。自分たちの偏見や固定観念を捨て、しっかりとした根拠・事実を調べる作業は困難を伴いましたが、その過程で「互いを認め合うことの大切さ」や「人へのまなざしの向け方」など多くの気づきと学びを得ることができました。

今般、事業構想を取りまとめましたので、活動の報告と男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想5事業を提出いたします。

このような機会を設けていただいたことを感謝しつつ、今後も薩摩川内市の更なる発展のために、当委員会が役に立てるよう願っております。

平成29年3月

薩摩川内市女性チャレンジ委員会
会 長 犬井 美香

「地域づくり事業」経営計画

【さつきグループ】 木場 精子 小島 恵里 井龍 慶子 近藤 紀美代 成川 多喜子 三好 清美

「コミュニティワーク・シェアリング」の事業の構想

私たち五月グループでは、初めからテーマを設定することをせず、メンバーそれぞれが普段の生活の中で思うことを自由に出し合った。その結果、根底にある考え方や価値観そのものをメンバー全員で問い直し、そこから課題を見つけることで一致した。すなわち「地域づくりの固定観念をみなおす」こと自体をテーマに、協議がスタートした。

その過程で、従来当たり前と思われてきた社会のあり方が変化しているが、地域の組織は従来のままであることに気がついた。現代に合った、より魅力的な地域であるために、地域のあり方そのものを模索し、解決の方向性を地域の新しいつながりを創出するしくみづくりに見いだした。

現状として把握されたこと・・・

- ① 住民ニーズと地域コミュニティ活動のずれ
従来の家族形態が変化し、家族に期待されていた相互扶助機能も失われつつある。それを補完するサービスが必要であるが、行政にそれを求めることは難しい。
- ② 高齢化による高齢者像の変化
高齢者年代や健康状態、生活スタイルなど多様な高齢者が増加し、従来の高齢者像とは実態が異なってきている。介護サービスを受給する高齢者がいるのと同じに提供する高齢者もあり、高齢者自身もひとくりにされることに違和感がある。従来の高齢者施策やサービスは画一的である。
- ③ 少子化による地域的つながりの変化
少子化による小学校の再編成に伴い、子どもをとおしてつながっていた地域のつながりが弱まった。
- ④ 高齢者・女性就職率の増加、子どもの生活の変化
高齢者や女性の就業者が増え、子どもは学習や部活動で忙しく、公共的役割をになうことが時間的に難しい。
- ⑤ 固定的性別役割分担意識による慣行
固定的性別役割分担意識による慣行があり、その結果地域コミュニティ活動に人材が生かされていらない。

重点課題として抽出されたこと

固定観念をみなおし、地域の新たなつながりや新しい担い手を創出するしくみづくり

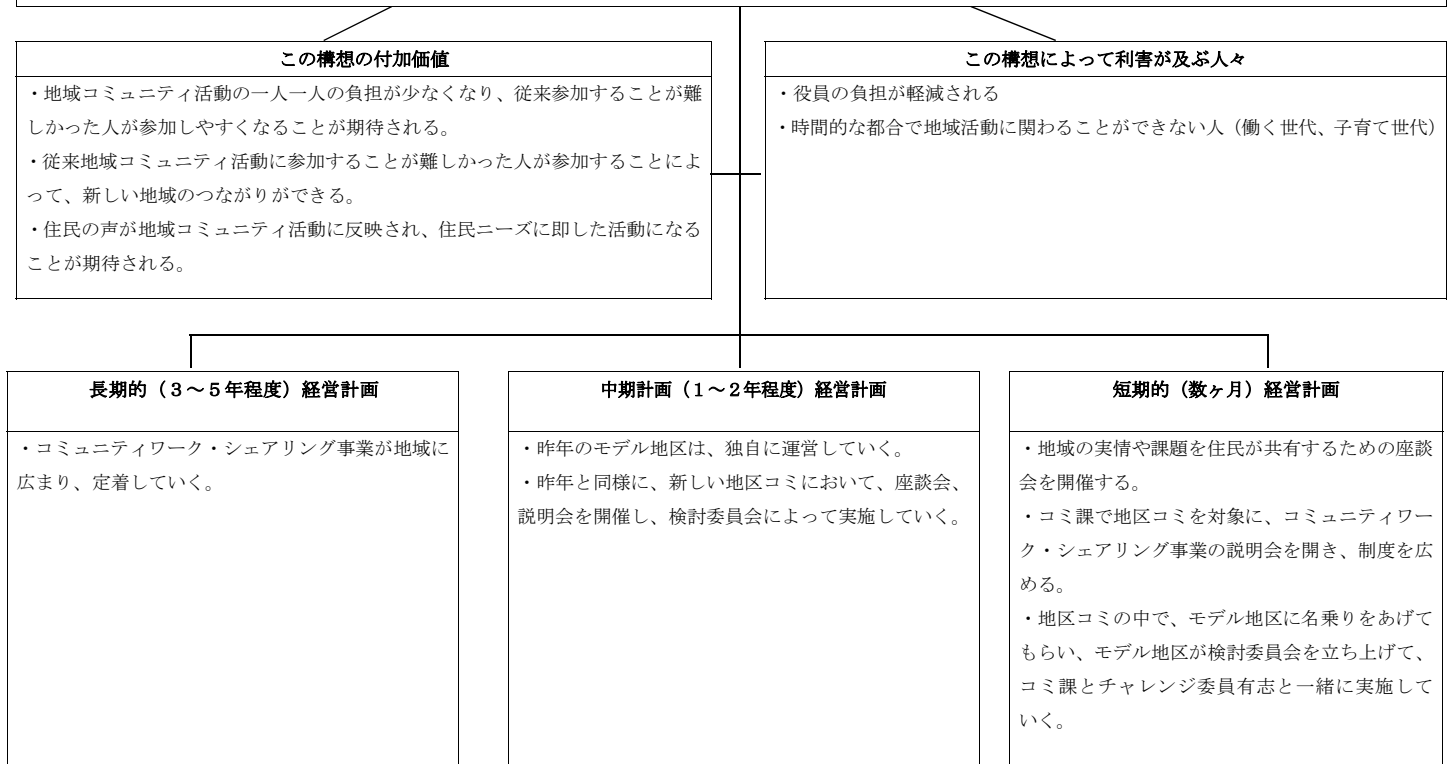
多様な住民ニーズを行政に求めるにも限界があり、地域にその役割が期待されているが、従来の地域組織や活動では対応できず、その担い手も不足している中、地域コミュニティ活動には公共的役割の担い手としての方策が求められている。

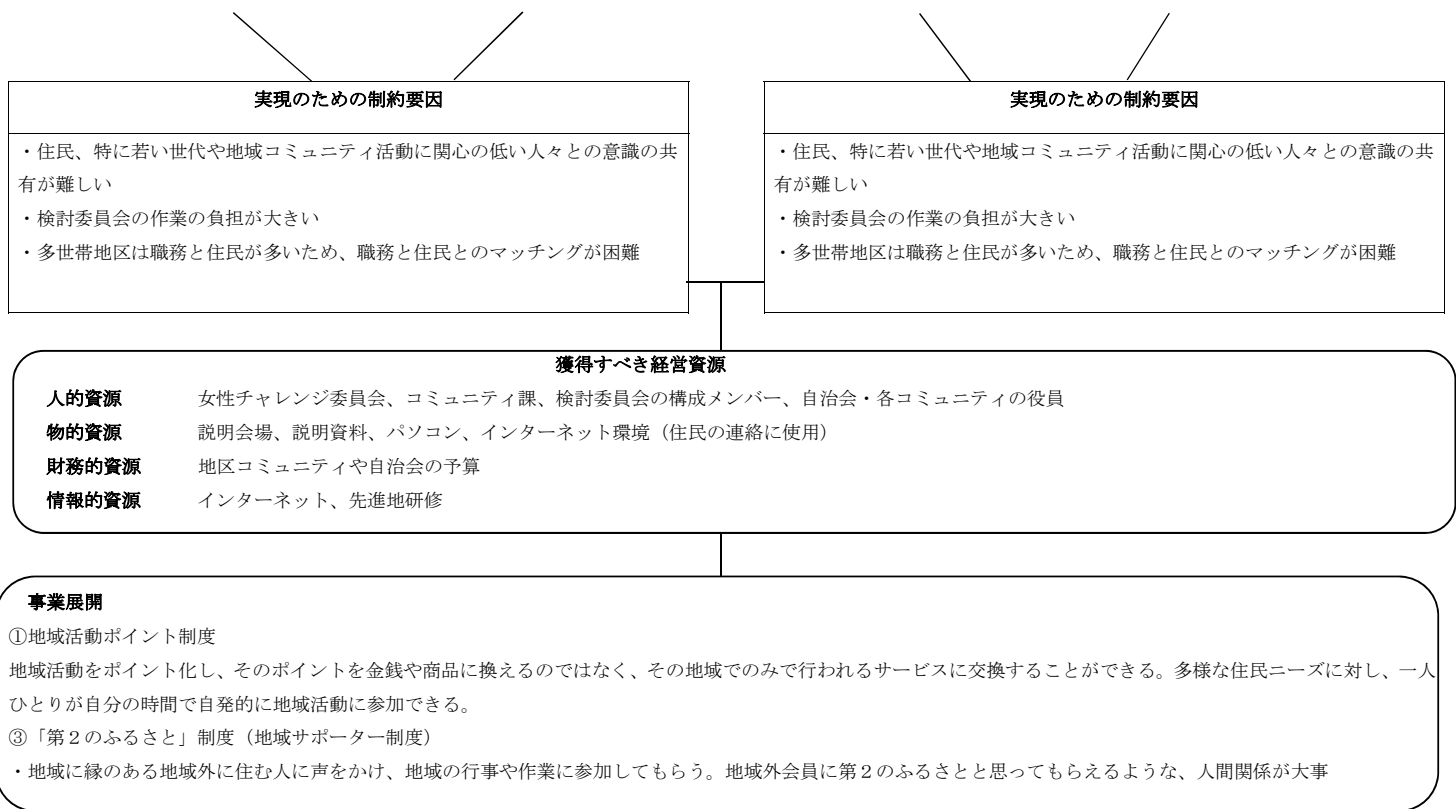
私たちは重点課題として抽出した「固定観念をみなおし、地域の新たなつながりや新しい担い手を創出するしくみづくり」の方策として「コミュニティワーク・シェアリング」事業を考えた。従来地域コミュニティ活動は役職によって組織されているので、仕事が役員に集中し、役員になった住民の負担が大きくなる傾向にあった。この慣行を見直し、地域コミュニティ活動を職務やイベントごとに分担することで、役職の負担が軽減され、時間的な都合で関わることができなかった働く年代層や子育て世代も、地域コミュニティ活動に参加しやすくなると考えた。

たとえば

- ・会長、副会長、部長といった役員が現に行っている仕事内容、会への出席や書類作成諸作業の負担を洗い出し、それをメンバーで分担する。一つの役職を複数名が受け持つことになるため、「責任がとれない」と敬遠されがちな会長などの役職に就くことが可能になる
 - ・行事ごとに担当者や係を募り、作業日や作業内容を事前に把握して分担するので、住民が自分のスケジュールに合わせて引き受けられる
 - ・通常1年の役職の任期を短くし、役職を引き受けやすくする
- などが予想される。

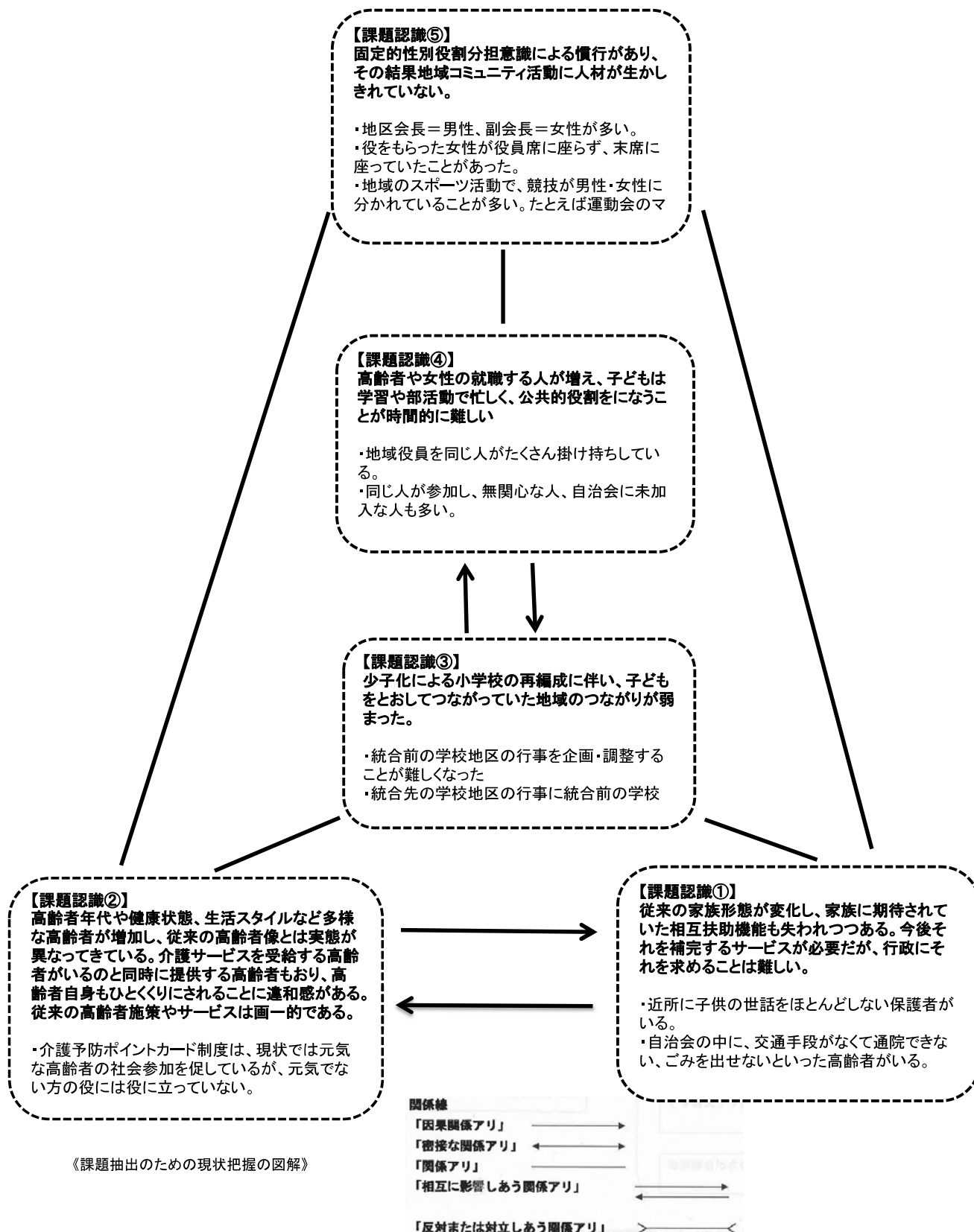
またより多くの住民が地域コミュニティ活動を担うことで、地域の実情が理解されると同時に、地域コミュニティ活動に様々な意見が反映され、地域の活性化や新しいつながりが生まれることが期待される。





【テーマ】

地域づくりの固定観念をみなおし、現代に合った、より魅力的な地域のありかたを考える



《課題抽出のための現状把握の図解》

「地域づくり事業」経営計画

【かのこ百合グループ】

江口 玉美 青山 美由紀 上城 智美 高田橋 徳江 野口 修子 松木 洋子

「地域に住む人々と訪れる人々を結ぶ」コミュニティ型観光「開発」の事業の構想

私たちのグループは、委員それぞれが仕事や生活する中で感じる問題を出し合う事からスタートした。甑島に住む委員が2名いたことと委員の仕事内容の中で観光に深く関心がある人がほとんどであり、現在の観光のあり方や今後の展望について話し合った。

委員それぞれの立場や職場は違っているが、自治会やコミュニティ協議会活動へ積極的に参加している人ならではの意見が多く出された中で、観光客をもてなす立場と、自ら観光する人として、地域をもっと住みやすい活気ある地域づくりとしてのコミュニティのあり方を考えることとなり、私たちの調査・研究のテーマを「地域に住む一人として『観光』を考える」とした。そして私たちが考える観光とは、末尾に（注3）として具体的な例を記した。

現状として把握されたこと・・・

- 【課題認識①】 現在の地域コミュニティづくりには、活動や行事に一人でも多くの人が参加できるよう、多様な住民のニーズが反映されていない。
- 【課題認識②】 地域住民のみならず他地域から訪れる人も参加できるような地域の特色を生かした活動など活性化に向けた地域資源の活用がなされていない。
- 【課題認識③】 観光資源としてなりうる空き家や空き地が生かされていない。
- 【課題認識④】 地域の特色を生かして、より観光客が要望する場所・交通機関・食事・宿・バリアフリーへの対応をすすめる必要がある。
- 【課題認識⑤】 廃校跡地など使われなくなった公共施設が有効活用されていない。

活気ある地域コミュニティづくりをすすめる中で、一定の決まった人だけが参加協力する状況はどの地区も一緒のようだ。より多く参加してもらう地域行事や活動にするためには、住民が参加しやすいような内容や興味のあるようなものにすることが必要だが、人口の少ない地域や高齢化のすすむ地域では、地域住民だけの力だけでは限界がある。

また、廃校跡地や空き家空き地がどんどん増えることも、地域の現状として見られる事である。

このような地域コミュニティの現状は、『観光』という視点からみると、【課題認識】②③④に集約されたように、地域住民のみならず他地域から訪れる人も参加できるような地域の特色を生かした活動や行事にするなどの工夫で地域資源として活用できる可能性があることがみえてきた。

また、現状把握をする中で地域に住む一人として、観光の取組がすすむ薩摩川内市ではあるが、在住者の中にも観光への消極的な考えを持つ人が少なくない。地域の中で少しずつ変化しつつある観光が喜ばしいこともあると同時に、受け入れ側の温度差があることにも気づき、住む人も訪れる人々もお互いに喜ぶ地域行事や活動を資源とする薩摩川内市ならではの観光ができないものかと考えるに至った。

課題として抽出されたこと・・・

① 地域の活動や行事の見直し（再評価）

活気ある地域コミュニティづくりには、地域の活動や行事に一人でも多く参加できるような工夫が大切である。地域住民のニーズに応える内容になっているか等の観点からの見直し（再評価）を行う必要がある。

② 地域間交流の促進

薩摩川内市の人々の間での地域間交流による人の動きをつくりだすことは、コミュニティ単位での観光につながるとともに、他地区とのかかわりを持つ（交流する）ことにより、異なるやり方やヒントを得ることができ、活気ある地域コミュニティづくりにつながる。

③ 地域資源のネットワーク化

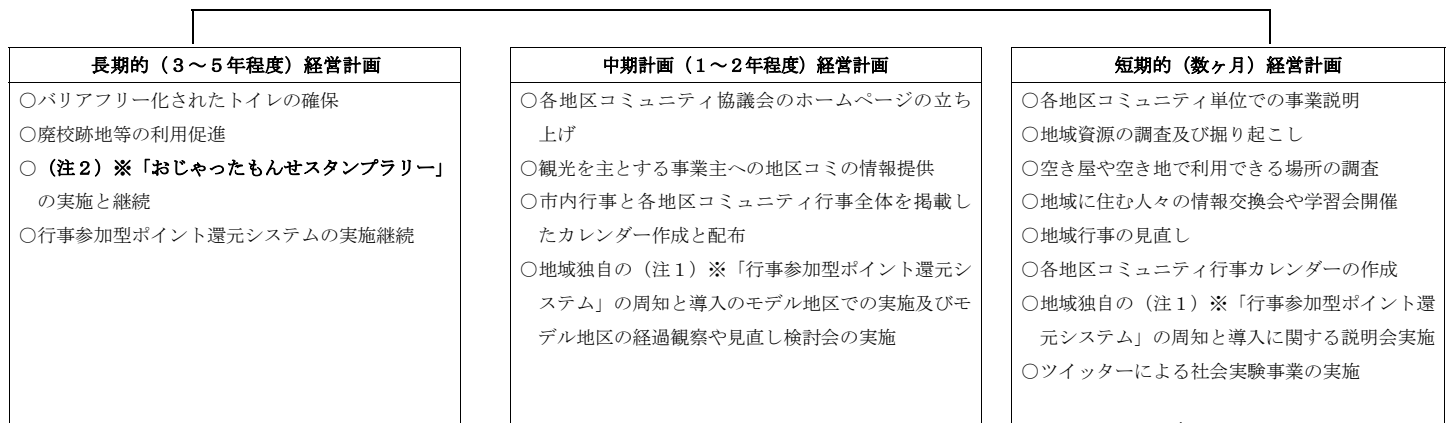
①、②の取組を進めることにより、それぞれの地域の特色ある地域資源のネットワーク化が図られることにより、薩摩川内市ならではの観光として生かすことができる。住む人と訪れる人の交流が促進されることは、住む人が楽しい地域であると感じることができる活気ある地域コミュニティづくりにもつながり、住む人も訪れる人々もお互いに喜ぶ観光に生かすことができる。

この構想の付加価値

- 各地域の特色を生かすことで資源になる
- 地域コミュニティ活動や行事の幅が広がる
- 他地域からの行事参加が促進される
- 新しいコミュニティ活動が生まれる
- 世代間・地域間の交流が生まれる
- 自主グループによる自発的活動が始まる
- 新たな地域資源や人材が観光に生かされる
- 廃校跡地や空き地が生かされる
- 行事参加者の人数が増える
- 住民と観光客の交流が始まる
- 地域住民のつながりが広がる
- 住む人や子供たちの郷土愛を生む
- IターンやUターン者の促進につながる
- 地区コミュニティビジネスの拡大と経済効果につながる

この構想によって利害が及ぶ人々

- 観光をする人
- 地域の中に埋もれている地域貢献の意欲のある人
- 高齢者や障害を持つ人
- 特技や趣味を持つ人
- ボランティア意欲はあるが、その機会にアクセスできない人
- 観光業者やそれに携わる人
- 空き地や土地を放置している人
- 地域の子供たちを含む住民
- 地域の自営業者
- 出郷者
- 地区コミュニティ協議会



実現のための制約要因
おじゃったもんせスタンプラリー（地域間交流事業）の実行委員会 ホームページ管理担当者の配属 資金調達（ポイント還元及び組織運営） ボランティアの確保

（注1）に関する説明

行事参加型ポイント還元システム：地域毎にコミュニティ行事等に参加した場合に参加や出席をした人にポイントをつけて、ポイントがある域に達した時に、地元の特産物等の一覧からそのポイントで交換できるものと交換できるという制度。

（注2）に関する説明

おじゃったもんせスタンプラリー：各地区行事を市内全体的に掲載する行事カレンダーを作成し、その中で地域が選んだ行事等に参加した場合ポイントラリーゲームに参加でき、地域間交流行事として、ポイント毎に地元の特産物と交換できる制度。あらかじめ参加希望地区や団体等に参加要望を聞いて導入するところのみスタンプラリーを行う権利がある。

獲得すべき経営資源

人的資源	（地区コミュニティ協議会・地域住民・組織スタッフ）
物的資源	（おじゃったもんせスタンプラリーの用紙・変換商品または商品券）
財務的資源	（運営資金・ポイント還元のための資金・おじゃったもんせスタンプラリーの資金）
情動的資源	（コミュニティ便り・薩摩川内市観光物産協会・市の広報紙・FM ラジオ・ツイッター・新聞・TV・インターネット）

II

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	人的資源として一人ひとりのメンバーの掘り起こし
他の組織やグループとの関係	シティセールスサポーター（観光シティセールス課） ○地域おこし協力隊 ○地区コミュニティ協議会 ○観光物産協会
特定の個人（特に専門勢力を有する人）	ホームページ作成ができる人 ○郷土研究者
対行政	薩摩川内市企画政策部・商工観光部

（注3） 地域間交流の例

- 例1 下甕島地区のお正月行事「トシドン」に、他地区や観光客を受け入れて見学を行い、年末から年始を観光客と地区住民と過ごせる企画を立案し実施する。
一人寂しいお正月を迎えるかもしれない方や郷土史に興味がある方には格好の観光で一人で過ごすお正月にもにぎやかになり、新しい交流が始まる可能性も秘める。
- 例2 鬼火炊きや十五夜の綱編み行事に他地区からの参加をしてもらう。地区のお祭りで小規模で行うような祭りに、隣からや遠方から祭りに参加してもらうまたは、協力してもらうことでにぎやかな祭りになり、高齢化や人口減の地域も労力不足を補うことができ、活気がでる。
- 例3 各地区の大晦日やお正月に、郷土料理やその料理教室を含めたおもてなしを行うツアーなどを企画し、地域に観光客を呼びこむ。
- 例4 椿油搾り体験と椿油を使った食事参加ツアーに観光として呼び込む
- 例5 大晦日の入来神舞見学で年越しをして正月を迎えて、鬼火炊きをするツアーを企画し地域に観光客を呼び込む。
- 例6 里地区で旧盆に行われる「かずらたて」行事への参加するツアー。早朝よりかずらを取り、それを巻いて綱に仕上げ、独特のリズムの中、ほら貝や鳴り物担当と踊り手、かずらの綱の引き手など観光客にも参加してもらう。
- 例7 東郷斧淵地区では、年末にしめ縄つくりを中学生に、菜種落しを小学生になど昔の作業道具を使って年配者が指導していてそれらに歴史探検も小学生を対象に行っている。このような行事に他地区からの参加者や観光客を取り込む。
- 例8 おのぶっ祭と称して、地域間交流と他地区間交流をしながら、メインに人形浄瑠璃・手作りの食べ物や作物・作品と舞踊発表など1日かかりの行事をしている。それらを観光客などの参加を促す。
- 例9 空き家をカフェに改装し、地域住民と観光客との交流を図る場所とする。

【テーマ】

地域に住む一人として「観光」を考える

【課題認識①】

現在の地域コミュニティづくりには、活動や行事に一人でも多くの人が参加できるよう、多様な住民のニーズが反映されていない。

- ・地区コミ行事に参加する人は決まっている
- ・地域のサロンは送迎があればもっと多く参加できる
- ・転入してきた人が地域に馴染めないでいる
- ・地区の行事や市の行事のパンフレットが沢山残っている

【課題認識②】

地域住民のみならず他地域から訪れる人も参加できるような地域の特色を生かした活動など活性化に向けた地域資源の活用がなされていない。

- ・地域盛り上げ隊の活動がよくわからない
- ・地域盛り上げ隊をもっと必要としている地域がある
- ・地域のリーダーに女性の役員の割合が少ない
- ・観光案内の看板が少なく、不親切である
- ・甌島では、観光の交通手段となるレンタカーが不足している
- ・高速船に自転車に乗せられない
- ・FM薩摩川内の使い方では予想以上の反響がある
- ・シティセールスサポーターの活動が限られている

【課題認識④】

地域の特色を生かして、より観光客が要望する場所・交通機関・食事・宿・バリアフリーへの対応をすすめる必要がある。

- ・観光客のリピーターを増やすための観光農園がない
- ・アリーナに食事をすることがない
- ・観光客は増加しているが、宿泊する割合は減少している地域がある
- ・車椅子を使えるトイレの数が少ない
- ・高齢者の方が歩いて移動するには不安定な場所が多い
- ・地域を越えたボランティア活動協力者がいる

【課題認識⑤】

廃校跡地など使われなくなった公共施設が有効活用されていない。

- ・人口が駅周辺に集まり、校外は減ってきている
- ・市内中心部だけに人があつまっている
- ・子どもの減少と統廃合で学校跡地が増えている
- ・廃校跡地が使用されないまま数年たつところがある

【課題認識③】

観光資源としてなりうる空き家や空き地が生かされていない。

- ・薩摩川内市の空き家が3345件に対し、空き家バンク登録は16件である
- ・市の空き家対策として申請を900件依頼しているが、89件申請されたそのうち住めそうなところは40件で内16件が登録されている

関係性

「因果関係アリ」

「密接な関係アリ」

「関係アリ」

「相互に影響しあう関係アリ」

「反対または対立しあう関係アリ」

《課題抽出のための現状把握の図解》

「介護している人を互いに支えることができる地域づくりモデル事業」の構想

～ 地域生活者が気軽に相談でき、一人ひとりに出番と居場所のある地域づくりを目指して ～

【なでしこグループ】新満 裕子 井上 秀子 小原 美津子 川添 典子 高岡 千歩 前野 信子

本市においても、少子化・高齢化、人口減少の中高齢者介護とその対応が待ったなしの課題である。そのような状況の中住民自らが、2025 年問題への対応は子育てと介護を同時に行うダブル介護やこのための離職など人々への生活の経済的・精神的に大きな影響を及ぼすものである。そんな中、住民自らが生活課題の解決に向かう「共助のコミュニティづくり」を狙いとしている。また、私たちは、介護している人の側からコミュニティづくりを考えるのは、介護している人に焦点を当てることで、生活課題が複合的に絡んでいることを明らかにするためである。メンバーが普段の生活の中で感じる問題を話し合う中で、それらの一人一人が抱える複合的な生活課題を共同と自治の力で解決することが期待される自治会やコミュニティ協議会における地域づくりの在り方に話が及び、調査・研究テーマを「介護している側から高齢者介護を考える」とした。そして、テーマについての現状把握～課題の抽出を行い、介護している人が、困りごとを話せ、またリフレッシュしながら地域の中で安心して暮らせる一方策として、この事業を立案した。

現状として把握されたこと・・・①介護・見守りが必要な高齢者一人一人の状況・ニーズの多様化に実感的に対応する、高齢者介護・見守りにかかるサービスを提供する仕組みづくりと、その担い手の意識改革が必要である。②高齢者介護を必要とする人が増えていく中、高齢者介護についての固定的性別役割分担意識・画一的な家族像など固定観念が依然根強く、介護の必要な家族がいる人が抱える多種多様な生活上の困難が潜在化している。③医療機関でのデイケア等介護保険制度内でのサービスの多様なニーズへの対応が困難である限界を埋めることが期待される各自治会や地区コミュニティ協議会で行われている高齢者の居場所としてのサロン活動は、利用者一人一人の希望に寄り添うことが難しい状況にある。④高齢者介護を必要とする人が増加する中、家庭介護をしている人の息抜きや場や情報交換の場を望む多様なニーズに対応する、より身近で充実したサービスの提供が求められている。⑤地域での様々な活動や行事が年齢や性別で一括りにする縦割りで行われる傾向にあり、年齢や性別にかかわらず一人ひとりの個性と能力が十分に発揮されず地域の活力に影響を及ぼしている。

課題として抽出されたこと・・・①性別役割分担意識がなかなか解消されない。②介護している人を支えることができる交流の場づくり③高齢化地域で高齢者が活躍できる場の創出①～③を集約すれば 地域の人々が生活者の視点で地域生活環境を見直し、共通の課題のもとに自治と共同の力で地域課題を解決していく「共助」の場として、地域コミュニティづくりの目標である地域生活の質の向上と地域生活課題の解決に向けて力を付けるには

住民全員で共有し、住民それぞれの知識や技術をいかし、住民それぞれが動きやすい体制（しくみ）づくり の必要性についての重点課題提起に至った。本事業はこれまで 一人で抱え込んでいた悩みや、困りごとをさりげなく掘り出すような場の創出を意図している。このことを機に 様々な人が集い、地域の人が抱える様々な生活課題を改善・好転・解決につなげることが期待される。介護している人を互いに支えることができることの意義は、世代・性別生活形態等の違いを超えて多様な人々の交流が促進されることにより、そこに培われていく住民間の信頼関係に、人々が抱える困り事や悩み事がさがりなく掘り出される「場」となり、そこに集う多様な人が活動する自治力による自発的で弾力的な「支え合い共助」の力が引き出されていくことになると、私たちは考えている。

この構想の付加価値

- ・コミュニティ意識の醸成が図られる。
- ・協働することへの理解が生まれる。（継続することで 広がり、深まる）
- ・今まで自治会活動に疎遠だった人等多様な人の自治会活動や行事への参加が促進される。
- ・開放的な集いの場から、世代間・地域間等多様な交流が促進され住民間の信頼関係が深まる。
- ・コミュニティづくりの担い手となりうる人材が掘り起こされ、自主グループによる自発的弾力的な活動が創出される。
- ・生活にネガティブな循環から、ポジティブな循環へとハリが創出される。
- ・地域生活者である住民一人ひとりの声をに非常的に聞くことができる。
- ・子育てへの支援の強化が図られる。
- ・市民一人ひとりがサービス（公的）を知っていることによって助言の幅が広がる。
- ・身近なダイバシティ体験により人権意識の醸成が図られる。
- ・様々な取り組みを継続していくことで 信頼が生まれる。このことにより更にポジティブな連鎖（自発的な行動、情報発信）が創出される。
- ・自治会への加入が促進される。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・社会的側面に目を向け、当事者意識として考える人
- ・介護をしている人で、悩みを相談したいと思っている人
- ・子育て中で、悩みを相談したいと思っている人
- ・居場所がなくて交流したいけれど機会がなかった人
- ・孤立しがちな子育て中、介護中等多様な生活者一人ひとり
- ・閉じこもりがちな高齢者等集いの場生きがいづくりの場を必要としている人
- ・仕事に追われて等様々な理由で自治会活動に疎遠になりがちな人
- ・自治会に加入していない人
- ・地域の中に潜在している地域への貢献意欲がある人
- ・自治会エリアにおける「いきいきサロン」「親子サロン」自主活動グループ等の活動に携わっている人

長期的(3～5年程度)経営計画

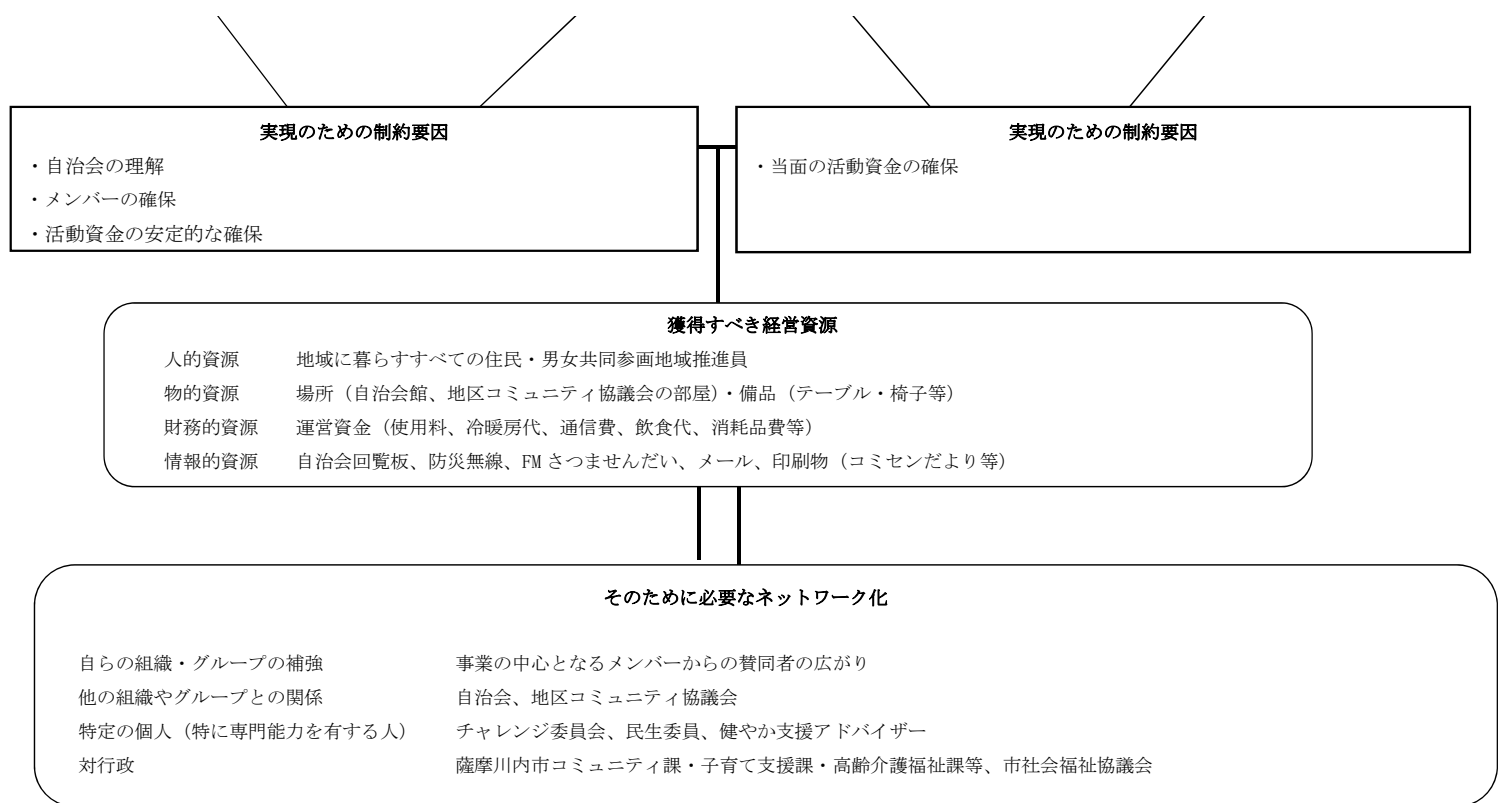
- ・自治会エリア内（地域コミュニティにおける）自主グループによる生涯学習、子育て支援、独居老人（独居高齢者）・学童等見守り、コミュニティビジネスや有償ボランティア等の活動が定着する。
- ・住民間の集いの場としての利用が定着する。
- ・世代間・地域間等様々な人との交流活動が盛んになる。
- ・自治会や地域コミュニティから活動予算の配分を受ける。
- ・モデル事業としてその成果と課題の報告会の実施

中期的（1～2年程度）経営計画

- ・自治会館やコミュニティの行事等の周知等情報の提供・・・発信：ミニ新聞の作成
- ・自主グループや少人数でも楽しめる活動の増強
- ・今利用している人たちの活動などの中で聞こえてくる情報の集約をして自治会コミュニティと集約する場をつくる。
- ・携わるすべての人が波を創出していく。
- ・有償ボランティアの育成

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・事業の中心となるメンバーを募る→メンバー間の共有化を図るための学習会（ソーシャルワーカーによる学習会等を開催しそのほじゅ的な情報を持つ人の育成、エンパワメントとして制度や法律を知る人を育成）の実施。地域で信頼されている人の創出と人権に係る学習会
- ・モデルとなる候補自治会やサロンへの事業説明
- ・モデル自治会への事業についての理解促進運動→モデル自治会で行われている活動の内容等利用状況の調査
- ・自治会エリア内の住民を対象にした地域コミュニティづくりに係る学習会の実施
- ・モデル自治会の自治会館やコミュニティの行事等で行われている活動を更に広げていく。またその中へ参加していく。○モデル自治会で現在行われている活動を担っている人への儀行説明と調整○モデル自治会の実施計画説明→自治会エリア内の住民への広報活動



「地域に住む全ての人たちがお互いに関わり合いながら一緒に成長できる」 コミュニティづくりのための「空き家再生等(リノベーション)」事業の構想

【さわやかガールズグループ】 犬井 美香 銭原 睦美 市来 香久子 陶山 美穂子 萩迫 八重子 前多 彩子

私たちのグループは、困り事や悩み、現状を話す中で地域には多様な人々が住んでいて、価値観や家族形態、抱える悩みや課題も多様化していることに気づいた。

特に高齢化に伴う生活上の困難や発達障害等精神障害者が抱える困難が地域の中で潜在化していて、地域コミュニティの中でも障害のある人たちとの共生・支え合いという積極的な意識や実践はみられない傾向にあることを感じた。

そこで私たちは、障害のある人もない人も、一人ひとりの生活上の困難に焦点をあて、配慮していく必要性を強く感じ、調査・研究のテーマを「地域に住む全ての人たちがお互いに関わり合いながら一緒に成長できる地域づくりを目指して」とした。

【現状として把握されたこと】

- ①地域の多様化が進む中で歩くことが困難な人など、外出に不自由を感じている人にとって“閉じこもり”や“買い物”などの日常生活を送る上での困難を支える地域コミュニティの活動は十分に出来ていない。
- ②コミュニティの中心であった学校が（統廃合により）失われることによって、人と人との繋がりが無くなり、地域コミュニティの活力がますます衰退していく。
- ③地域生活に関わる基本的なルールを守られかたには、住民間の状況の違い（障害の有無・高齢による認知症など）で格差がある。
- ④地域コミュニティ協議会や自治会の運営には、依然として固定的な性別役割分担意識や昔からの慣習が、地域活動のあり方に影響を与えている。
- ⑤子育てや介護の負担が、多様な一人ひとりの生活に影響しており、その負担を軽減する地域の支え合いができていない。
- ⑥私たちの地域には様々な障害のある人がいるが、地域コミュニティでは障害がある人たちとの共生や支え合いという意識づくりができていない。

これらの現状から抽出された課題は

- ①日常生活に困難を抱えている方々への理解
- ②多様な人々との共生や支え合いという意識をもった地域コミュニティづくり
- ③多様な人々が地域コミュニティづくりに参画できる環境づくり

以上①～③が必要であるということに集約された。これらを解決するための事業構想は、住む人が居なくなり空き家になった場所で、お茶飲みをしたりお喋りができる機会を設けることにより、自然な交流が生まれ、悩みや困り事の相談もしやすい雰囲気ができる。互いの生活上の困難も理解できるようになり、支え合いの気持ちも出てくる。また、空き家近くの耕作放棄地を活用し、地域に住む人々が持ち得る技術や経験を生かし、障害のある人もない人も共に汗を流し、野菜などを作り、加工・販売することで「生きがい」を見出すことができ、精神障害を抱えている方々の心の回復にも繋がる（農福連携）と私たちは考えている。空き家も新しい価値が生み出される。これが『空き家再生等（リノベーション）』事業である。

この構想の付加価値

- ・空き家の再利用ができる。
- ・耕作放棄地や空き家が無くなると景観も良くなる。
- ・人と人との繋がりができる。
- ・農業と福祉の連携（農福連携）ができる。
- ・住民のつづやきの中から悩み事や困り事の掘り起しができる。
- ・互いの生活上の困難を理解することにより、支え合う気持ちが育つ。
- ・地域コミュニティにおける人権意識の醸成、男女共同参画の推進に繋がる。
- ・地域に住む人々の技術や経験を活かせる。
- ・精神障害を抱えている方々の心の回復に繋がる。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・発達障害等精神障害があり、自宅に閉じこもりがちの人
- ・外出に不自由を感じている高齢者
- ・全ての住民
- ・自治会長及び自治会の役員
- ・地区コミュニティ協議会役員

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・耕作放棄地での野菜作り。参加者は住民誰でも。精神障害があり閉じこもりがちの人にも積極的に声掛けをする。
- ・年間通して野菜を収穫できるよう構築
- ・収穫した野菜をそのまま販売する他、料理の得意なメンバーで加工品作りに取り組む
- ・住民の生きがいに繋がるよう事業を定着させていく。
- ・住民に一人ひとりの人権を基盤とする男女共同参画社会の実現に向けた意識が共有される。

中期的（1～2年程度）経営計画

- ・事業の中心となるメンバーの意識共有、スキルアップのための学習会
- ・生涯学習での勉強会の継続
- ・月1～4回のペースでお茶飲み会開催（住民誰もが立ち寄りやすい雰囲気づくり）
- ・農業など専門的な知識や技術をもつ方々と農福連携に向けた細かな年間計画を作成
- ・必要な物資を集める
- ・情報発信の継続

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・地区コミュニティ協議会・自治会への事業説明（連携のために）
- ・場所の選定
- ・生涯学習での勉強会（認知症や精神障害について症状や支援の仕方、男女共同参画の学び）
- ・情報発信のためのチラシづくり・コミセン便りの活用・防災無線の活用
- ・住民への協力呼びかけ（ボランティア意欲のある人、専門的な知識・技術をもつ人など）
- ・事業計画作成

実現のための制約要因

- ・場所の確保（空き家・耕作放棄地）
- ・人材確保（農業の得意な人、福祉の専門知識をもつ人、料理の上手な人など）
- ・加工品を作る場所、販売する場所の確保
- ・資金調達

実現のための制約要因

- ・住民の協力
- ・場所の確保（空き家・耕作放棄地）
- ・地区コミュニティ協議会との調整（人、イベント）
- ・資金調達

獲得すべき経営資源

人的資源	地区住民、地区コミュニティ協議会、農業の知識や技術をもつ高齢者、福祉の専門知識をもつ人、民生委員、健やか支援アドバイザー
物的資源	空き家、耕作放棄地、農業資材
財務的資源	補助金の活用（市民活動補助金、空き家再生利用補助金）
情報的資源	コミセン便り、防災無線、薩摩川内市広報誌、FM さつま川内

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	事業への賛同者や協力してくれるメンバーの掘り起こし、意識の醸成
他の組織やグループとの関係	自治会、地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会などとの連携
特定の個人（特に専門能力を有する人）	女性チャレンジ委員会、民生委員、ケアマネージャー、精神保健福祉士、保健師
対行政	薩摩川内市役所コミュニティ課、県男女共同参画センター

【テーマ】

地域に住む全ての人たちがお互いに関わり合いながら
一緒に成長できる地域づくりを目指して

【課題認識④】

地域コミュニティ協議会や自治会の運営には、依然として固定的な性別役割分担意識や昔からの慣習が、地域の活動のあり方に影響を与えている。

- ・私たちの地域では、発言する機会が男性に偏り、コミュニティでの活動を決める時に思っていることが言えない。
- ・私は、日頃、自治会の総会に参加していない。(夫が参加)地域についての相談事を言う事が出来ない。
- ・子育て世代の若い人たちは学校・子供の行事や仕事に負われて地域の役員等をする時間的・精神的な余裕がない。
- ・私の地域では、昔ながらの法事の風習があり行事が多忙である。
- ・私達の地域の活動は固定化している。
- ・私達の地域では転勤の人が多く、子どもの人数はある程度いても地域の伝統的な行事が継続して行えない。伝えていく人が減っている。
- ・私の地域では、高齢者クラブへの80才以上が多く65才代の加入者が少ない。65才代の方は、加入はまだ自分は若過ぎると思っている。
- ・美化推進委員会に出席したら、女性2人。後は50人位男性であった。
- ・高来地区の本町自治会では、75才以上の方は地域の作業は免除されているが、体力のある方は協力している。
- ・私の自治会では、年に1回の早朝の河川愛護で、川の中に入って行う作業は男性(60〜70才代以上がほとんど)が行う。女性の参加者の方が多く、女性は道端の軽作業を行う。川の中の作業が重労働で時間がかかっている。

【課題認識②】

コミュニティの中心であった学校が(統廃合により)失われることによって、人と人とのつながりが無くなり、地域コミュニティの活力がますます衰退していく傾向にある。

- ・閉校後の跡地利用の意見を言う場がない。
- ・私達の地域では、学校統廃合がなされる。地域に学校が無くなると若い世代の移住は望めないと、多くの人が心配している。
- ・私達の地域は若い人が少なくなっている。

	平成19年2月1日現	平成23年2月1日現
0〜14歳	15,216人 14.70%	13,908人 14.30%
15〜64歳	60,885人 59.00%	54,804人 56.20%
65歳以上	27,172人 26.30%	28,907人 29.50%

- ・私達の地域では小学校が統廃合されると小学校と一緒にいた運動会など地域の活動が無くなると、多くの人が心配している。
- ・2年後には地域の小学校が統廃合される。未だ跡地活用が決まっていない。このまま地域まで無くなってしまわないかと危機感を抱いている人もいる。

【課題認識⑤】

子育てや介護の負担が、多様な一人ひとりの生活に影響しており、その負担を軽減する地域での支え合いができていない。

- ・私の地域のご主人を亡くした一人暮らしの八十代の方は、買い物・ゴミ出し等で、多忙な娘を当てにするのを悩んでいる。
- ・私の地域の行事では、これまで高齢者が係の中心となっていたが、体力面への負担があったので、若い人にも声をかけて係に参加してもらうようになった。
- ・地域にひとり暮らしの人がいるが、異性の為、声をかけづらい。(体調不良の時)
- ・私達のコミュニティでは、普段高齢者が年代別ごとのグループに分かれて地域の活動をしている。研修旅行など合同の活動をする時は、移動手段など困り事を互いに助け合っている。
- ・私達の地域では、フェリーで1日出掛けの時、子どもを預ける場所(施設)がない。
- ・同居して介護をしている人の中に、時には気晴らしに出たいと思う日もある、とのこと。介護者の方にも気分転換等の助けを必要としている。
- ・私達の地域では、子ども達が学校行事・部活等で島外に出る時に、宿泊代・親の日程調整等、制約が多い。
- ・介護者の中には、デイサービスに出かけられた日が唯一の息抜き、と言われる人もいます。
- ・一人暮らしの高齢の母親と同居するために、夫婦で実家に帰って来た。娘が母親とうまくいかず、両方共悩んでいる。

【課題認識⑥】

私たちの地域には様々な障がいがある人がいるが、地域コミュニティでは障がいがある人達との共生や支え合いという意識づくりができていない。

- ・私達の地域では大人の発達障害(自閉症スペクトラムなど)、統合失調症の方への対応をどのようにするか、学びたい人が沢山いる。
- ・友人の婿が最近アスペルガーとわかった。婿は社会的に異常がなさそうであったが、給料をわずかしか家計に入れない等があり、妻はストレスがたまるばかり。3人の子育てもあり、実家から経済的援助を受けている。
- ・都会から仕事を辞めて帰省し(うつ病を発症した為)年老いた両親と同居。経済は両親に依存している。
- ・現在40歳前後の一人暮らしの女性。幼い頃から祖母、母、兄妹家族と暮らしていたが、祖母、母は死別。兄妹は施設入所。その女性は低賃金で働き、家屋が半壊した家を修復することが出来ずに住んでいる。
- ・私は、薩摩川内市の保育園に勤務するようになってアスペルガー等や発達障害について学ぶ機会を得た。
- ・要介護者の親を、アルコール依存症や精神の病で治療中の子が自宅で介護している。子は、病気の症

【課題認識①】

地域の多様化が進む中で歩くことが困難な人など、外出に不自由を感じている人にとって「閉じこもり」や「買い物」などの日常生活を送る上での困難を支える地域コミュニティの活動は十分に出来ていない。

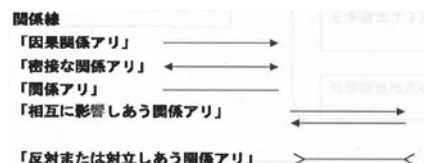
- ・私たちの地域では、高齢者の公的な交通手段が限られているため、外出を制限されている高齢者がいる。
- ・私の近所の90歳の方は、デイサービスに希望する曜日に行きたいと思っているが、市の方で決められていると不満に思っている。
- ・私の地域では88才まで車を運転していた方が、免許返納したとたん、閉じこもりとなった。デイサービスには行っているが、それ以外は1人暮らしなので、体調面をまわりの人が心配している。
- ・私の地域は買い物に行くには車が必要である。しかし、高齢者になると危険が伴うという理由で免許の返納をすすめられる。どうすればいいのが悩んでいる人もいます。
- ・私の近所の94才の家から出られない人の所に90才の方を連れて遊びに行く。4時間位、昔話に花が咲いた。
- ・私の地域の高齢者の方は、遠い所にバスに乗って行くよりも身近な住みなれた所で人との出会いがほしいと願っている。
- ・私の近所の90歳の方はデイサービスに行き為の着替え等の準備が面倒で行きたくない。
- ・私の地域では、配偶者がお互いに元氣である・親しい人が一人いるのでそれ以上は求めないということで地域の行事(サロン)に参加していない人がいる。
- ・私の地域の高齢者の方はほんの少しの小皿の付き合いを喜ばれる。食の問題の大切さを実感している。
- ・自分の家の周りにお年寄り子ども達のふれあいの場がない。
- ・高齢になり、いつも家にいて、世間とのふれあいがなく淋しい思いをされている。

【課題認識③】

地域生活に関わる基本的なルールについての住民間の状況の違い(障害の有無・高齢化)で格差がある。

- ・私の自治会では田んぼの2kmの散歩コースにコンビニ袋のポイ捨てが目立ち、そこを通る人達は不快な思いをしている。年に2回クリーン作戦の参加者や田んぼの所有者が定期的に拾っている。
- ・私の家の近所に猫が増え続けていて、フンをあちこちして臭い。
- ・私の自治会では、きちんとゴミの分別がなされていない時もあり、保りの人が困っている。
- ・私の家の近くの温泉施設で駐車場以外の場所にもいつも駐車している知人があるが、それを注意できない自分がある。

《課題抽出のための現状把握の図解》



「こんにちは事業」構想～地域で育てよう一人ひとりの見守り力～

〇色々な制度があるにも関わらず、それでも困っている人がいらっしゃる現状に気づいた。それを変えるには、制度化されていない隣近所のつきあいが大切なのではないかということになり、それを見守り力と表現した。特定の誰かではなく地域に生活する私達一人ひとりがそのような見守り力を発揮できるようにするしくみを作ることで地域に暮らす人々を一人ひとりが見守り支えるために、この事業構想を立案

【あじさいグループ】香山 由美子・大木 恵・小川 和子・田中 朱美・鳥越 裕美子・湯田 恵

・テーマについて現状として把握されたこと

- ① 自治会において、民生委員・健やか支援アドバイザー等の制度化された見守りよりも隣近所の見守りの方が高齢者にとって頼りやすくなっている。
- ② 民生委員等に求められる個人情報への対応等制度上の限界に役割が果たしにくい状況がある中でも、役割を十分に果たしている事例もあり、民生委員の活動の取組状況の格差には、活動する地域の人や自治会等との連携・協力体制の格差がある。
- ③ 認知症や障がいのある人、他者や地域との関わりを拒む傾向にある人等見守りが必要なのに見守ることが困難な状態にある人をどのように支えるのかについての知識や技術を学習し、仕組みを考える必要がある。
- ④ 地域においては、依然として根強い固定的性別役割分担意識により、女性が発言しにくい雰囲気があり、介護や子育ての問題等女性が当事者となりやすい一人ひとりが抱える生活課題の実感が地域コミュニティ活動に反映されていない。
- ⑤ 老若男女～多様な立場を生きる一人ひとりが尊重され、世代や性別にかかわらず地域の誰にも居場所となる交流の場があれば、住民間の支え合いが生まれるが、悩みや困り事を気軽に相談できる場がない。
- ⑥ 地域コミュニティにおける身近な見守りを必要とする人が増えていく中、多くの地域コミュニティは、少子高齢化に伴う担い手・後継者の確保等様々な課題を抱える中、期待される役割と現状とのギャップに悩んでいる。

・課題として抽出されたこと

- ① 誰もが困りことを発信しやすい「隣近所づくり」を基盤とする地域コミュニティづくり
- ② 地域の誰にも出番と居場所がある交流の場・機会をつくりだす「見守り力」のしくみづくり

この構想の付加価値

- ・お互いが話しやすくなり、信頼関係が生まれる。
- ・笑顔であいさつすることで、心が開く。
- ・情報の共有ができる。
- ・立ち止まって話をする中で、お互いの関わりと結びつきが生まれる。
- ・困ったときに、相談者として思い出してもらえるような関係になる。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・普段、交流の少ない人
- ・民生委員・健やか支援アドバイザー・自治会長等の役職にある人
- ・すべての住民

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・住民同士の信頼関係ができ、自治会活動にも多くの人が参加する。
- ・地域の誰もが見守り見守られるしくみができる。
- ・自治会マップが完成する。
- ・個人で解決できない点は、適切な相談機関へつなぐことができるようになる。
- ・学校帰りの子供が帰ってくる場ができる。

中期的(1～2年程度)経営計画

- ・みんなが集まる場ができる。
- ・自治会館・地区コミュニティ協議会の事務所・公園等に気軽に立ち寄れる交流の場ができる。
- ・心配事や困り事も話せるようになる。
- ・場をまとめる中心人物・その周りに協力者をつくる。
- ・連絡網を作成する。
- ・標語を募集する。
- ・のぼり旗を作成し、掲揚する。

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・笑顔で立ち止まってあいさつをするように声掛けをする。
- ・自治会長会議等で自治会で実施計画の説明をする。
- ・リサイクルの場等で安否確認をする。
- ・自治会行事の後に茶飲み場を設ける。
- ・賛同者を増やす。
- ・回覧板を回すときに、声掛けをする。

実現のための制約要因

- ・自治会の理解
- ・個人情報の取り扱い
- ・鍵の管理
- ・メンバーの確保(チャレンジ委員の広報)

実現のための制約要因

- ・自治会の理解
- ・個人情報の取り扱い
- ・自然な感情・感情的になりがちな心

獲得すべき経営資源

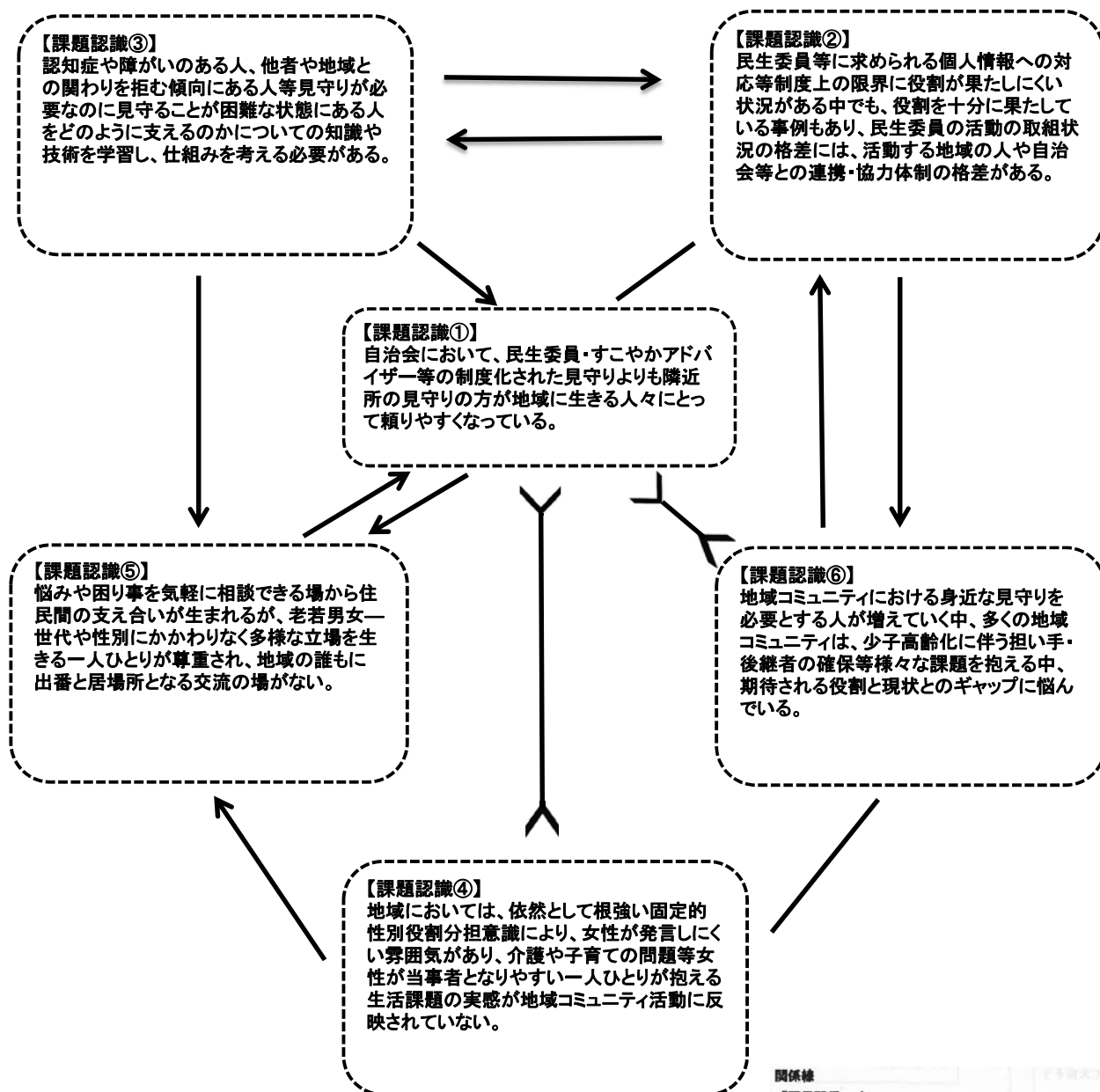
人的資源	地域住民・中心人物・サポートする人
物的資源	集まる場所・飲食物
財務的資源	茶菓子代・のぼり旗代
情報的資源	回覧板・防災無線・FMさつまさんだー・公報・市報・社協だより・連絡網

そのために必要なネットワーク化

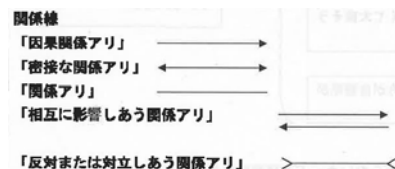
自らの組織・グループの補強	賛同者の広がり
他の組織やグループとの関係	地区コミュニティ協議会・自治会長会・地元の小中学校
特定の個人(特に専門能力を有する人)	女性チャレンジ委員・自治会長・民生委員・健やか支援アドバイザー
対行政	市役所コミュニティ課

【テーマ】

地域で育てよう一人ひとりの見守り力



《課題抽出のための現状把握の図解》



薩摩川内市女性チャレンジ委員会活動経過（第6期）

平成27年度

<u>第1回全体会</u>				
4月30日（木）		<u>川内文化ホール</u>		
<u>第2回全体会</u>				
5月27日（水）		<u>川内文化ホール</u>		
<u>第3回全体会</u>				
7月28日（火）		<u>川内文化ホール</u>		
自主学習会（あじさい 香山） 8月17日（月） 市役所会議室				
自主学習会（さわやかガールズ犬井） 9月 1日（火） スマートハウス				
自主学習会（なでしこ 新満） 9月 7日（月） 川内文化ホール				
自主学習会（かのこ百合 江口） 9月16日（水） 川内文化ホール				
<u>第4回全体会</u>				
9月16日（水）		<u>川内文化ホール</u>		
自主学習会（さわやかガールズ犬井） 10月 1日（木） スマートハウス				
自主学習会（さつき 木場） 10月 3日（土） スマートハウス				
自主学習会（なでしこ 新満） 10月13日（火） 川内文化ホール				
自主学習会（あじさい 香山） 10月16日（金） 市役所会議室				
自主学習会（さわやかガールズ犬井） 10月20日（火） スマートハウス				
自主学習会（かのこ百合 江口） 10月21日（水） 川内文化ホール				
<u>第5回全体会</u>				
10月21日（水）		<u>川内文化ホール</u>		
自主学習会（さつき 木場） 10月31日（土） スマートハウス				
自主学習会（なでしこ 新満） 11月 5日（木） スマートハウス				
自主学習会（さわやかガールズ犬井） 11月10日（火） スマートハウス				
自主学習会（さわやかガールズ犬井） 11月24日（火） スマートハウス				
自主学習会（かのこ百合 江口） 12月17日（木） 川内文化ホール				
<u>第6回全体会</u>				
12月17日（木）		<u>川内文化ホール</u>		
自主学習会（かのこ百合 江口） 12月25日（金） 川内文化ホール				
<u>第7回全体会</u>				
2月 9日（火）		<u>川内文化ホール</u>		

平成28年度

第1回代表者会	4月 4日(月)	市役所会議室
第8回全体会	4月21日(木)	市役所会議室
自主学習会(さわやかガールズ犬井)	5月 6日(金)	スマートハウス
第9回全体会	5月12日(木)	川内文化ホール
視察勉強会(さわやかガールズ犬井)	7月 6日(水)	つくし園と担当課
第10回全体会	8月23日(火)	川内文化ホール
自主学習会(なでしこ 新満)	9月12日(月)	川内文化ホール
自主学習会(さわやかガールズ犬井)	9月14日(水)	スマートハウス
自主学習会(さつき 木場)	9月17日(土)	スマートハウス
勉強会(あじさい 香山)	10月 5日(水)	担当課
自主学習会(さわやかガールズ犬井)	10月13日(木)	スマートハウス
第2回代表者会	9月14日(水)	市役所会議室
第11回全体会	10月18日(水)	川内文化ホール
自主学習会(さわやかガールズ犬井)	10月27日(木)	スマートハウス
第12回全体会	11月10日(木)	市役所会議室
自主学習会(かのこ百合 江口)	11月18日(金)	川内文化ホール
自主学習会(なでしこ 新満)	11月28日(月)	川内文化ホール
自主学習会(かのこ百合 江口)	12月 5日(月)	市役所会議室
自主学習会(あじさい 香山)	12月 6日(火)	市役所会議室
自主学習会(さわやかガールズ犬井)	12月 8日(木)	川内文化ホール
第13回全体会	12月22日(金)	川内文化ホール
自主学習会(さつき 木場)	1月 7日(土)	川内文化ホール
第14回全体会	1月12日(木)	川内文化ホール
自主学習会(なでしこ 新満)	2月13日(月)	川内文化ホール
自主学習会(あじさい 香山)	2月14日(火)	市役所会議室
自主学習会(さつき 木場)	2月20日(月)	川内文化ホール
第3回代表者会	2月 8日(水)	市役所会議室
第15回全体会	2月28日(水)	川内文化ホール

第6期薩摩川内市女性チャレンジ委員会委員名簿（平成27年4月1日から平成29年3月31日）

【分科会別：五十音順】

グループ名	氏 名	地区	備考
五月（さつき）	井龍 慶子	湯田	
	小島 恵里	平佐西	書記
	木場 精子	永利	リーダー
	近藤 紀美代	滄浪	
	成川 多喜子	平佐西	
	三好 清美	育英	

グループ名	氏 名	地区	備考
さわやかガールズ	市来 香久子	上手	
	犬井 美香	藤川	リーダー
	陶山 美穂子	平佐東	
	銭原 睦美	隈之城	書記
	萩迫 八重子	高来	
	前多 彩子	長浜	

グループ名	氏 名	地区	備考
かのこ百合	青山 美由紀	清色	書記
	上城 智美	隈之城	
	江口 玉美	手打	リーダー
	高田橋 徳江	樋脇	
	野口 修子	里	
	松木 洋子	斧刈	

グループ名	氏 名	地区	備考
あじさい	大木 恵	峰山	
	小川 和子	平佐西	
	香山 由美子	亀山	リーダー
	田中 朱美	川内	
	鳥越 裕美子	市比野	書記
	湯田 恵	高来	

グループ名	氏 名	地区	備考
なでしこ	井上 秀子	永利	書記
	小原 美津子	川内	
	川添 典子	水引	
	新満 裕子	育英	リーダー
	高岡 千歩	隈之城	
	前野 信子	可愛	